



伊藤昇さん（1962年度卒）と奥様ひろ子さん（1968年度卒）は共に写専卒で、1970年にご結婚されて、現在も京都にお住まいです。京都北山にある植物園で木の温もりを感じながらインタビューさせていただきました。伊藤先生の首にぶら下がっている愛用のカメラはどんなクスリよりも元気の栄養剤のようでした。

伊藤 昇 × ひろ子

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.42

UP! SPECIAL
HAPPY is
FAMILY



写専はわたしの人生です。

写真を撮ることは、わたしの一番の健康法です。毎日、1万歩を目標に、撮影散歩を続けています。毎日、見慣れた風景の中で「あれっ」と再発見するのがいいですね。

伊藤昇（77）さん・ひろ子（73）さんと京都の植物園で待ち合わせ。雨降りの日以外は、ほぼ毎日通っているという植物園を、案内していただくことになりました。

「このエリアは生態園といって、自然に植物が生殖しているところです。あっ、コレを見て下さい。オオカメノキといって、おもしろい芽のカタチをしているでしょ」よく見ると葉芽がパンザイのカタチをしている。「小さいけど尾瀬の道もあるんですよ」冬の寒さに耐えるように、水面には小さな芽が頑張って顔を出している。「これが、ホンシヤクナゲ、向こうがロウバイ」まるで植物園長のように詳しい。

マイナスイオンが充満する植物園の森を抜けると、小さなカフェにたどり着く。温かいコーヒーをいただきながら「写専時代はどうでしたか？」「わたしの人生はオール写専ですから、思い出はありすぎて何を話そうかなあ・・・」40年以上も写専とともに歩んできた記憶が次々に浮かんでくるのだろう。彼の瞳は写専の教員

時代の優しさで輝いていた。「アベノの校舎を新しくして、北加賀屋に移って、近瀬を新しく建てて・・・アベノの校舎の屋上で校舎引っ越しの送別会をしたんですよ。あの時は号泣しましたね。この植物園でも、クラスの学生たちとよく撮影会を開きましたよ。家内が手作りのお弁当を家から運ぶんですよ。学生たちが大喜びで」「数が多いからタクシーで運んだりして（笑）」奥様も最近は写真を撮っているようだ。「二人でよく撮影に出かけるんですよ。姫路城に行ったり、琵琶湖に行ったり。北海道に行ったときは、卒業生の阿部君と出会いましたよ。富良野の美しい景色の中で、そこに住んでいる卒業生と出会うなんて感動でした」静かで落ち着いた森の中では、気分がよほどいいのかが話が収まらない。

写真と出会い、それがキッカケで奥様と出会い、多くの学生と出会い、たくさんの夢と出会った伊藤ご夫妻。これからもいっぱい写真を撮り続けて下さい（は）